

【タイトル】アナログだから、できる。～絆と人間力で成功させる DX～

【概要】

DX（デジタルトランスフォーメーション）が叫ばれる中で、「生産性向上」「業務効率化」といった言葉に圧倒される企業は少なくありません。特に、長年日本のものづくりを支えてきた老舗中小企業では「うちはアナログだから無理」「DXなんてデジタル先進企業だけの話だ」と思い込んでいます。

実は、アナログ企業にこそ、DXで成功する可能性が秘められています。なぜなら、アナログ企業には「現場力」「人間力」そして何よりも「絆」という武器があるからです。

本書は、全国各地を飛び回り、人を繋ぐ架け橋として100社以上のDXの成功に携わってきた著者による、「デジタルとアナログの接点に生まれた絆」についての1冊です。著者の原点は、「企業の従業員一人ひとりが働きやすくなってほしい」ということ。DXという手段により技術と人が融合することで、チームや組織の本来の力が引き出され、どんな企業でも確実に変わる。その確信に基づき、技術やツールに頼らない「絆」と「人間力」を活かした成功の仕組みとDXの本質を提案します。そしてアナログ企業が変革を起こし、「新常識」を創り出すための具体的な方法をお伝えします。

【想定する読者ターゲット】

- ① アナログ体質の会社を変えたい30代～50代の経営者・リーダー
- ② 組織全体を進化させたい管理職・人事担当者
- ③ アナログでも未来を切り拓きたいすべてのビジネスパーソン
- ④ 技術以上に「人間の力」を信じたいすべての挑戦者

【構成案】

はじめに アナログ企業がDXで成功する理由

DX成功の鍵は「技術」ではなく「絆」と「人間力」。

第1章 人間力がDXに命を与える

技術だけでは実現できない「人間力」の重要性を明らかにする。

- ・信頼と共感が組織を動かす：絆が生む組織の強さを具体的なポイントで解説。
- ・現場の声を変革の原動力に：現場発信でDX化が成功した事例を紹介。

第2章 現場力を活かした新しいルール創り

現場が動けば、すべてが動く！現場の声をDX推進にどう活用するか。

- ・事例：老舗製造業A株式会社はこう変わった！
- ・現場の課題を丁寧に拾い上げ、小さなデジタル化を始めたストーリー。
- ・成果が生まれ、組織全体が次第に変革していったプロセスを解説。

第3章 持続可能なDXにするには

DXを一時的なプロジェクトで終わらせないために、具体的な仕組みを提案。

- ・三日坊主にしない DX: 小さな成功を共有し続ける戦略。
- ・世代間ギャップを超える: 若手とベテランが互いに学び合う環境の創り方。
- ・文化として根付かせる: 継続的に進化する組織を作るための具体策。

#### **第4章 DXがもたらす未来の可能性**

アナログ企業が DX を通じて切り拓く可能性を描く。

- ・社会全体に広がる変革の波: DX が地域や社会に与えるインパクト。
- ・未来を動かす力: 人と技術の融合が企業をどう進化させるかを示す。

#### **おわりに あなたの会社が変革のリーダーになる**

- ・アナログ企業だからこそできる、日本独自の新常識を創り出す。
- ・DX は「絆」と「人間力」が鍵！未来を共に創る一步を踏み出そう！

【サンプル原稿】

## アナログだから、できる。～絆と人間力で成功させる DX～

いまや、DX（デジタルトランスフォーメーション）は誰にとっても身近な存在です。たとえば、スマートフォンでのキャッシュレス決済は、財布を持ち歩かずに支払いを済ませることができます。また、オンラインショッピングは、クリック一つで商品が自宅まで届く便利さを提供しています。そして、企業でのリモートワークツールの利用により、離れた場所でも効率的に働くことが可能となりました。これらの仕組みは、私たちの日常を支えるだけでなく、組織の働き方や社会全体を根本から変革する力を秘めています。

### 第1章 人間力がDXに命を与える

私たちは技術の進化が目覚ましい現代に生きています。しかし、本当に大切なものは「人間らしさ」であり、「人と人の絆」です。DXにおいても、その成功の鍵は、単なる技術導入ではなく、人間力がもたらす力です。

私は企業のDX化について相談を受けるITコンサルタントですが、原点は「関わる企業の従業員一人ひとりが働きやすくなってほしい」という純粋な想いにあります。その想いを持ちながら、私は100社以上の企業に携わり、DXという手段を通じて多くの現場を変えてきました。

最初にお伝えしておく、DXはゴールではなく、課題を解決し、仕事をより良くするための「一つの手段」でしかありません。その手段を用いるのは「人」です。人同士が繋がり、共に成長する仕組みを作ることが大前提です。技術やツールを使いこなせることが重要なものではありません。

人間力がDXに命を与える。そうして導入されたDXが人を活かす。これが人を中心にしたDXの本質です。

#### **信頼と共感が組織を動かす**

「技術が全てを解決してくれる」。そんな幻想を抱いている企業が多いのが現実です。しかし、現場で働く人々が心から納得し、共に歩み出さなければ、どんな優れた技術も機能しません。

たとえば、私がIT顧問を務めている老舗製造業A株式会社では、社員同士の信頼が変革を支える柱となりました。この会社は創業50年以上の歴史を持ち、加工製造の分野では高い実績を誇る会社です。しかし、長年書類はすべて紙で管理し、業務フローも何年も同じ手順でやり続けてきたなど、若い社員の目から見ると時代遅れに映るやり方が増えてきているのは事実でした。

このような背景の中で、DXの導入を進めるために、まず社員が「なぜDXが必要なのか」を共有することに時間をかけました。その結果、全員が目的を理解し、自分たちの役割を自覚するようになったのです。

その DX の取り組みを最初に任されたのが、A 株式会社の現場スタッフで係長である田中さんでした。田中さんは社長から直々にプロジェクトリーダーとして指名され、この仕事に前向きに取り組んでいました。しかし、現場の状況は彼にとって厳しいものでした。多くの社員が「こんなことやっても意味がない」と冷ややかに見ている中、田中さんは孤軍奮闘でプロジェクトを進め始めたのです。

田中さんが最初に取り組んだのは、ペーパーレス化でしたが、その背景にはもっと大きな目標がありました。田中さんは夜遅くまで「どうすれば会社を良くできるのか」「従業員がもっと働きやすい環境を作れるのか」を必死に考えていました。現場の声を拾い上げ、それを具体的な改善に繋げるために、自らが率先して行動し続けたのです。

その過程で、「なぜ DX が必要なのか」を若手社員に考えてもらうための働きかけも、田中さんは時間と手間を惜しみませんでした。最初は半信半疑だった若手社員も、田中さんの熱意と行動に触れる中で、次第に「一緒にやってみよう」という姿勢が変わっていききました。

田中さんはペーパーレス化を進めるだけでなく、業務日報管理や収益管理のデジタル化にも着手しました。さらに、AI を活用したデータ分析の仕組みを導入し、現場の意思決定を迅速化しました。その結果、会社全体の業務効率が劇的に改善され、年間で 1,000 万円以上の利益を生み出すことに成功しました。

田中さんの努力は、単なるシステム導入にとどまらず、会社全体の文化を変えたのです。彼が率先して行動し、社員一人ひとりの声を拾い上げたことで、社員全員が「自分たちがこの会社を作り上げている」という自覚を持つようになりました。

ある若手社員がこう言いました。「田中さんが何度も声をかけてくれて、自分の意見も聞いてくれたので、やってみようと思えました。」田中さんの粘り強い姿勢が徐々に現場を変え、社内の DX 化を実現、成功に導いていったのです。

この成功体験が、現場全体に「やれば変わる！」という自信をもたらしました。

### **現場の声を変革の原動力に**

DX 導入時には、どの企業でも最初は反発や不安の声が上がります。しかし、それをチャンスに変えるのが現場の力です。

A 株式会社では、現場スタッフが半信半疑の中であげた声を田中さんが率先して取り入れていくことで、現場全体の空気が変わりました。特に田中さんのようなリーダーが現場の声を大切に続けたことが、成功の大きな要因です。

田中さんはこう語っています。「自分一人では何も変えられなかった。でも、現場のみんなが協力してくれるようになったとき、これが本当の DX なんだと感じました。」この一言が示す通り、現場の声を拾い上げ、それを反映させることで、DX は単なる上からの指示ではなく、現場発信の取り組みとして組織に浸透していきました。

DXは技術の話ではありません。それは、人と人との信頼を基盤とした、未来を創る力のことです。信頼と共感が深まるほど、社員一人ひとりが変革の主演となり、組織全体が進化を続けます。

本章では、「人間力」がどのようにしてDXを成功に導くのかを具体例と共に解説しました。信頼、共感、そして絆……これらが生み出す力が、未来への道を照らします。

このように、技術以上に「人」が持つ力に焦点を当てたDXこそが、アナログ企業に未来を切り拓く力を与えるのです。

[以上となります。よろしく願いたします]